

SHELL

(Support Health care, Education
and Learning, Lab)

～健康情報拠点としての薬局機能の
リエゾンサービス～のモデル構築

久保田 洋子 氏

日本薬科大学 教授 薬物治療連携研究会



薬物治療連携研究会 第1回学術大会

1.活動要旨

社会構造の変化に伴う医療環境の変化と医療は高度化・複雑化していることから、保険薬局薬剤師の活動も変化が求められている。我々は、医療環境の変化に対応した保険薬局における薬剤師と多職種(医師・栄養士・看護師など)との協働による新しい役割を構築するため2014年に「薬物治療連携研究会(以下研究会)」を発足した。

厚生労働省により、「健康サポート薬局のあり方について」が公表されたように、薬剤師や薬局に求められる役割に変化がもたれているが、実際にこのような業務を行っていく上で障害や問題点を抱えている。我々はその問題点を解決するため、薬剤師と地域住民(患者を含む)の双方の悩みを解決することを目的として「SHELL Project」を立ち上げ、健康情報拠点として在宅患者を含めた地域の医療に対する薬局機能のリエゾンサービスについてモデル構築を試みている。

2.実施計画

SHELLは、地域の団体や健康保険組合をはじめとする地方公共団体と、小学校・中学校・高等学校などの教育機関が連携するためのサービスを提供する事業である。地域住民の健康支援として「Support Health care」(「SHELLサロン」)を、教育機関で医薬品などにおける教育を行う「Education&Learning」(「SHELLスクール」)を行い、そして、全事業の研究開発を行う場を「Lab」(「SHELLラボ」)とした。

特に、本取り組みの特徴は、薬局と病院、さらに3大学(北陸大学薬学部・金沢大学薬学部・日本薬科大学)も加わる薬・薬・薬連携の体制がすでに整っていることである。

(1)「SHELLサロン」

地域住民(患者を含む)や多職種への「SHELLサロン：健康相談やファルマシアンカフェ」を実施する。

(2)「SHELLスクール」

小学校・中学・高校での体験型医薬品の適正使用教育・コンテンツの開発、薬物乱用防止教育における啓蒙活動を行う。

(3)「SHELLラボ」

様々な活動で使用するコンテンツの研究・開発、薬学教育の場の提供を行う。

現状「健康情報拠点」として、各薬局内でどのような優れたコンテンツを準備しても、**地域住民の認識が薄い状況**であれば活かす事ができない。そこで本プロジェクトは、地域に既存しているコミュニティ薬局・薬剤師が、自ら地域に入り込み「薬局の活用方法」や「健康に関する情報」を主に体験型で伝え、地域の薬剤師の存在と役割を認知してもらう体制の構築を目指す。



養護教員への薬物乱用講座